

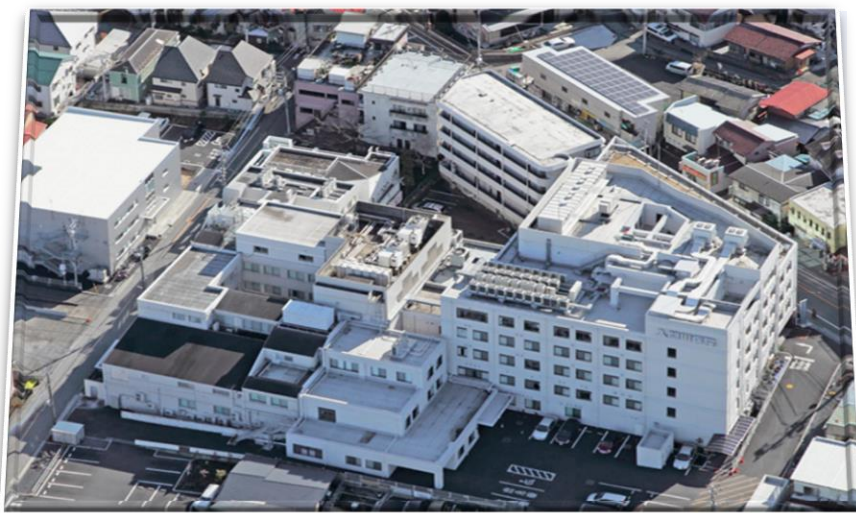
看護業務改善のためのICT導入 —ICT機器導入への工夫と評価—

社会医療法人 入間川病院
看護部長 細谷 美穂

施設概要

病院の理念

地域の人たち一人ひとりの健康を守る
今、こころの医療を…



所在地	埼玉県狭山市祇園17番2号
病床数	199床(令和7年3月1日現在)
主に算定している入院基本料	急性期一般入院料4 療養病棟 地域包括ケア病棟入院料2
職員数	351名/看護職員186名(看護師105名、准看護師30名、看護補助者51名) (令和7年2月1日現在)
患者数	入院患者数2865名、退院患者数2821名(うち看取り患者数307名)(令和5年度)
看護部の理念 (患者へのケア方針)	ひとり一人に、こころのこもった看護を提供します
看護提供方式	プライマリーナーシング
看護記録方式	フォーカスチャータリング
現在使用している看護機材	ナースコール 離床センサー
看護師の離職率	看護師11%(令和5年度)
問い合わせ先	http://www.irumagawa-hosp.com/ (H.P) 04-2956-6111 rep_of_nurse@irumagawa-hosp.com (看護部)

本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

- 看護業務の煩雑化・多様化
- 看護師不足

本事業の目的

- 看護業務改善
看護業務の統一化

ICTのご紹介(Amivoice Ex7)

電子カルテに繋いだ音声機器を通して、音声入力された内容を、電子カルテに転送できるシステム

Amivoice(Ex7)使用方法

- 起動
- 電子カルテの入力箇所をクリック
- マイクを持つ
- 音声ボタンを押して発語
- 音声効果の認識し電子カルテに表示



(アドバンスメディア)

課題と期待される効果

課題

- 看護師の電子カルテ入力する能力にバラツキがある
- 看護師の記録するタイミングにバラツキがある
- 看護記録の時間が、残業に繋がっている

期待される効果

- Amivoice(Ex7)の使用により電子カルテ入力方法統一
- 看護記録時間の短縮により、定時終業を目指す

取り組み期間と主な内容

期 間		主な取り組み内容
2020年	8月	<p>コロナ禍の業務負担軽減の目的として導入</p> <ul style="list-style-type: none">• Amivoice(Fx7)を全館に導入⇒55台(8,412,800円)• 4病棟×8台、外来・手術室他(ノート型電子カルテ)と希望する医師の診察室に主に設置• 操作指導
2024年	8月～9月	<p>看護業務改善⇒記録の短縮</p> <ol style="list-style-type: none">1. Amivoice(Fx7)使用の基準作成2. 記録のタイミングの統一…患者ラウンド時に記録の実施3. 記録マスター作成し記録内容もある程度統一 <p>※1～3は記録担当主任1名が全館指導</p>
2025年	4月～	<p>看護記録マニュアルの改訂</p> <ul style="list-style-type: none">• 2024年に実施したAmivoice(Fx7)使用した記録方法を加える• 新入職、途中入職者への研修の実施• 看護記録記入時間の定期的な確認と評価

ICT機器導入の課題

- コロナ禍の看護部業務負担軽減目的での導入(2020年)
- 不眠不休の毎日→特に看護管理者の残業時間の延長(最大100時間越え)
- ICT導入後効果が見られず



- ICT機器以外の看護業務が多かった
- ICT機器使用に対する規定作成や指導が不足

取り組みによる効果

看護師記録に係る時間

【手打ちの入力時間】

患者1名10分×199名=1,990分×(1勤務帯/1回記録)×2(日勤・夜勤)=

3,980分(66時間)/日×365日=1,452,700分(24,212時間)

1,452,700分(24,212時間)×1,800円(看護師時給)=43,581,600円

【Amivoice(Fx7)の入力時間】

患者1名3分×199名=597分×(1勤務帯/1回記録)×2(日勤・夜勤)=

1,194分(19.9時間)/日×365日=435,810分(7,264時間)

435,810分(7,264時間)×1,800円(看護師時給)=13,075,200円

43,581,600円－13,075,200円＝30,506,400円/年の削減

ICT機器を活用するためのポイント

1. ICT機器活用の工夫⇒**担当師長1名で作成**
 - ・ Amivoice(Fx7)使用の基準作成
 - ・ 使用マニュアル作成し、全ての看護職員へ配布、直接指導
 - ・ 使用のタイミングの統一⇒患者ラウンド時に使用を徹底
 2. ICT機器以外の工夫⇒**担当主任1名で実施**
 - ・ 電子カルテ機能の活用⇒入力の精度を上げる工夫
 - ・ 看護記録のマスター作成
 - ・ 患者情報収集の指導
- **少数精鋭部隊(ICT機器と電子カルテ得意な管理者主導)**
1ヵ月間の中で指導と評価、再指導と評価を繰り返し結果に結びつける

参考)今後のICT機器導入に関する計画

トロミサーバー導入の検討(業務負担軽減)

- 看護補助者によるお茶へのトロミ付け(手作業)

準備所要時間⇒約2時間/回×3回×360日=2,160時間

2,160時間×1,280円(看護補助者時給)=**2,764,800円**

- トロミサーバーにてトロミ付きお茶は、1度に2ℓ作成

準備所要時間⇒**0分**

嚥下障害患者90名(R7.3.1現在)

ランニングコスト【サーバーリース代+トロミ材+ほうじ茶】×2=1,320,000円/年

(アペックス)

2,764,800円-1,320,000円=1,444,800円削減



W300×D650×H726 (mm)

参考)今後のICT機器導入に関する計画

膀胱内尿量測定器導入の検討(看護の質向上)

- 膀胱内尿量測定とは…超音波により膀胱内尿量(残尿)を測定
- 目的⇒尿道カテーテルの早期抜去、尿路感染の防止、自力で排尿管理

• 排尿自立支援加算・算定要件

- ①入院中の下部尿量機能障害を有する患者に対して、
多職種チームの介入による包括的な排尿ケアを行った場合
- ②排尿ケアチーム設置⇒医師、看護師(専任)、作業療法士(専任)



膀胱用超音波画像診断装置・リリアムワン⇒35万円/台 (大塚製薬)



本事業に参加したまとめ

看護業務は、各病院、施設で細かく手順書として決められている

●看護手順書⇒看護を行う中でケアの手順や使用する物品などの情報を記載した資料

- ・手順書の大改定は1回/年(小改定は随時)
- ・手順の数、現在348 (R7.3.1現在)

ICT機器導入は、人材不足な看護業務改善に期待



手順を作成し、効果的に活用

ポジショニング依頼時の流れ	社会医療法人入間川病院 R/Cマネージメント委員会
<p>準備</p> <p>①デジタルカメラ ②体交枕(ビーチ)、各種クッション(各病棟管理)</p>	
<p>実施</p> <p>①各病棟の看護師より依頼を受け、褥瘡・拘縮等の問題がなければスタンダードで依頼する。 ②ポジショニングが必要なケースは、『ポジショニング依頼表』の項目に沿って記入する。 ③当該患者の褥瘡部位を確認し、姿勢の問題点を評価する。 ④体交枕(ビーチ)等を用いて適切な姿勢を作る。 ⑤写真をとり説明を踏まえて用紙にまとめる。 ⑥看護師にまとめた用紙を渡し、内容を説明する。</p>	
<p>備考</p> <p>・看護師は貰った用紙を誰が見ても分かるように患者のベッド付近の壁に張る。</p>	